

たまには玉庭新聞

発行：高谷里美（地域おこし協力隊）
玉庭地区交流センター四方山館
電話：0238-48-2130



*** 皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の高谷里美と申します。去年の晩夏に玉庭へ引っ越してきました。玉庭は私が育った環境に似ていて、懐かしさを感じています。

さて、これから不定期ではありますが、玉庭新聞を発行させていただきます。皆さんから玉庭の楽しい話、懐かしい思い出などをお聞きして、独り占めするのはもったいない！皆さんにお伝えしたいなあと思ったのがきっかけです。いろいろな話を伺って、玉庭の面白いことをたくさん発信していきたいです。どうぞよろしくお願い致します。

第1号の今回につきましては、「地域おこし協力隊について」と、玉庭に住んでいる3人の隊員をご紹介します。



地域おこし協力隊って、どんな活動をしているの？

地域おこし協力隊は全国組織!?

“地域おこし協力隊”は、人口減少や高齢化が著しい地方において、都市住民など地域外の人材を受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的とした総務省が推進しているプロジェクトです。隊員の委嘱、活動内容は各自治体に任せられており、2018年度は全国の1,061自治体で5,359人の隊員が活動しています。



川西町の場合

川西町では「地域づくり担当」「農業研修生」「食文化プロモーション」「遅筆堂文庫研究員」の4枠で隊員が活動しています。2020年2月現在、地域づくり担当3名、農業研修生2名、食文化プロモーション担当1名、遅筆堂文庫研究員1名の、計7名の隊員が活動しています。

玉庭の場合

任期満了後の就農を目指して活動しています。地域行事などにも参加しながら、就農に必要な技術・資格等の取得を目指します。

農業研修生



さとうひでとし
佐藤英俊



たかやたけし
高谷毅

食文化プロモーション

郷土料理の調査や、「豆のあるまちかわにし」プロモーションに関する活動等を行います。



たかやさとみ
高谷里美

なぜ、東京から川西町玉庭に来たの？

松尾在住



電気通信会社に30年間勤務し、東日本大震災の被災地で防災無線の復旧に携わりました。仕事を通して東北の人達と関わる中で、東北に移り住みたいという思いが湧き、川西町への移住を決意しました。

御伊勢町在住



長年サービス業に携わってきました。深夜に帰宅する不規則な生活をしていて、自然豊かな所で規則正しい生活がしたいという思いから、田舎暮らしと農業への関心が高くなりました。川西町地域おこし協力隊の募集を知り、訪ね、自然豊かな環境と人のあたたかさに感動し、玉庭に移住者が多いことも嬉しく、あっという間に移住の運びとなりました。

御伊勢町在住



5～6年前から田舎暮らしがしたいねと夫婦で話していました。お互いに健康的な生活がしたいと思ったのと、もっと人が少なく静かな所で暮らしたいと思ったからです。朝日町出身で、リンゴは好きですが、川西町の田んぼの風景に心惹かれました。山々に囲まれた平野があるこの景色に、毎日うっとりしています。

主な活動場所 / 好きなこと



ひでとし

農事組合法人 大河原農園

旅行 温泉 スイーツ

この春からは自分で田んぼもやっていきますので、ご指導、アドバイスなどお願いいたします。



たけし

農事組合法人 御伊勢町

早寝早起き 掃除 洗濯

春から、畑仕事と田んぼの仕事をするのが楽しみです。家庭菜園に何を植えようか考えています。



さとみ

玉庭地区交流センター四方山館

作ること のんびり 漫才や落語

郷土料理の調査の他、豆の栽培や森組の活動、イベントの手伝いなどをする予定です。

次回発行は7月の予定です。お楽しみに！